慶応四辰六月

生糸

蚕種紙

御改所雑記

辰六月六日昼頃より、町御差配御役所御呼出ニ付、肝煎一同罷出候処、

御玄関敷居際迄相進ミ候、被仰渡左ニ

柳町壱丁目　伊七
同　三丁目　佐兵衛
山田町三丁目　逸平
同　壱丁目　弥兵衛
緑町弐丁目　市左衛門

右五人のもの共江、是迄之通肝煎申付候旨、清水勝右衛門様より被仰渡ニ御座候、御立会

奥野浅五郎様

犬山藩

後　鼻輪善十郎様
前　伊藤平馬様
坂田実太郎様

右被仰付候

八日町　真兵衛
西青沼町　久兵衛

右之もの肝煎御免被仰出候

差上申御請証文之事

一今般生糸并蚕種紙、是迄之通被居置候間、私共儀、右取扱肝煎改而被仰付候ニ付、不取締之儀無之様、入念可相勤旨被仰渡難有奉畏候、依之御請証文奉差上候処、如件

慶応四年
辰六月六日

柳町　伊七印
同町　佐兵衛印
山田町　逸平印
同町　弥兵衛印
緑町　市左衛門印

右五人之者江被仰渡候趣、私共奉畏候、以上

伊七五人組　徳兵衛印
佐兵衛五人組　太吉印
逸平五人組　半七印
弥兵衛五人組　吉右衛門印
市左衛門五人組　勇助印
柳町名主
謙吉煩ニ付代　吉蔵印
山田町名主　喜兵衛印
緑町名主　太次郎兵衛印

町御役所

犬山藩
伊藤平馬
鼻輪善十郎

右蚕種生糸運上取扱懸り被仰付、町差配江

致附属可相勤旨被仰渡候、為心得相達候事、

六月六日

六月十六日御達書付写

当国生産之蚕種生糸横浜出し之儀ニ付、五月廿日江戸表迄持運、請改候様布達之趣茂有之候処、右御沙汰之儀ハ御取消ニ相成、甲州生産之蚕種生糸ハ、当国三分御代官、市中ハ町差配ニ而、夫々是迄之御法之通税金取立可申旨、今般更而御沙汰有之候旨被仰出候間、右之趣相達候事、

但、種紙生糸共於模寄相定、御定之税金上納相済候分ハ調印致し可相渡、右調印無之品物ハ抜荷之取扱ニ相成候事、

六月十六日

町方御役所

肝煎江

御尋ニ付御目見ニ入候書付

乍恐以書付奉申上候

生糸蚕種紙肝煎一同奉申上候、御当国産物蚕種紙生糸之儀ハ、去ル未年横濱御開港以来、諸国一般之荷物江戸表ニ而御改之上、横濱江輸入売込来候処、不都合之儀御座候哉、一昨寅年より出産之国々ニおゐて、御国中一般、御改之儀被仰出、夫々改印御渡し相成候ニ付、諸国共地元ニ而相改出荷致来候処、今般御改正ニ而、猶又江戸御改之儀被仰出候ニ付、蚕種紙之儀ハ、既ニ江戸表并神奈川御出張仮御改所江差出し、御改を請御印税上納仕候、然処江戸表迄之処、無印之品を見込候歟、宿々ニおゐて多分之口銭酒手等ねたり取、旦御関所ニおゐても彼是被仰聞、諸入用も相懸り、昨年中より差立候駄賃銀之三倍茂相懸り、其上江戸表江持込候而ハ

日数茂相懸り、同所荷込之節ハ御改を請候迄滞留も致し、右旁入費多分ニ相増、商人共難渋之趣申立候ニ付、不恐顧奉願上候、相成御儀ニ御座候ハハ御改之儀、当所ニおゐて御改印被成下置候様仕度奉存候、

一御改方之儀、是迄外国行蚕種壱枚ニ付永五拾文ツツ上納、外国行生糸之儀壱〆匁ニ付糸目三拾匁ツツ差上、御国遣ひ分壱〆匁ニ付糸目拾五匁ツツ上納仕来候、然処御国遣ひ之分糸目拾五匁差上御改を請、右之分又々外国行ニ相成候節ハ、又々拾五匁差上、都合三拾匁ニ相成申候、左候得ハ、当地ニ而御国遣イ御改を請候分、江戸表江差出し候節ハ、江戸表ニおゐて糸目拾五匁ツツ之上納ニ而御改印被成下置候様、前以奉願上候、

一是迄徳川家支配之節、国々ニおゐて御改ニ相成、諸国弁利ニ
相成来候処、今般
御料ニ相成、江戸御改ニ相成候而ハ、恐多御儀ニ御座候得共、
諸国一般不弁利之道利ニも相聞可申哉ニ　奉存候間、此段深
御賢慮被成下、相成御儀ニ御座候ハハ、諸　国弁利筋ニ相成
候様仕度奉存候、
右ハ伊七心得書ニ而御用所江御見せ申候処、早速御差配様江御
覧ニ相成、猶又御参謀様江御覧ニ相成候趣、右ニ付急々江戸表
御惣督様江御窺相成候御儀と愚察仕候、然処甲府御改ニ相成、
一旦御国威相立申候、猶又道中筋悪弊ニ付奉願上候、左ニ

乍恐以書付奉願上候

甲府蚕種紙生糸肝煎一同奉願上候、当国生産

蚕種紙生糸共、是迄冥加上納出荷致来候処、宿々ニおゐて不相当之増賃銭請取之、其上問屋ニ而口銭と相唱受取之、并馬士共酒手と相唱、賃銭之外ニ受取来候悪弊ニ付、是迄度々歎等候得共、其儘ニ相成居候、然処今般復古

御一新ニ付、国中挙而難有奉存、都而悪弊相改り候折柄御座候処、生糸蚕種紙之儀ハ江戸表ニ而御改被仰出候ニ付、先達中種荷物差出し候処、昨年より猶又増長致し、不相当之口銭酒手等受取之、荷主共丹精仕候利益之内、多分道中入用ニ相成、一同難渋仕候ニ付、賃銭入用書別紙を奉入御覧候、猶又今般当国生産之蚕種紙生糸共、於当表御改印被成候ニ付、出精出荷税納可仕候、右ニ付而ハ御国益之荷物、過当之賃銭ハ不及申上、多分之口銭

酒手等被貧取候而ハ、横浜出し之商人相減、且ハ算当相立候得ハ、自然元方江相懸り候道利、左候而ハ御国内疲弊ニ陥候御儀と実以歎敷御儀ニ奉存候ニ付、不得止事奉願上候ハ、元来金高之荷物ニ付、敢而賃銭下直を相望候儀ニハ無御座、相当之賃銭差出し可申心得ニ御座候得共、御税納之荷物不法之口銭酒手等ねたり被取候而ハ、

御威光ニ相拘り可申御儀と奉存候間、此段御賢慮被成下置、不法之口銭酒手等ねたり取不申候様、厳重道中筋江御触流し被成下度奉願上候、且御印鑑持参仕候上ハ、道中筋

御関所差支無之様御達被成候様奉願上候、是迄ハ御印鑑持参仕候而も、兎角不都合之儀申之、当惑仕候儀間々有之候ニ付、是又奉願上候、右願之通り御採用被成下置候ハハ、右商人共一同難有仕合奉存候、以上

慶応四辰年六月十九日

生糸　　伊七印
肝煎　　佐兵衛印
蚕種紙　　逸平印
　　弥兵衛印
　　市左衛門印

生糸
　御懸り
蚕種紙
　御役人衆中様

甲府より横濱迄賃銭入用覚

一蚕種紙
　四箇付壱駄ニ付此入用金三両三分位

生糸
右ハ卯年迄之入用ニ御座候処、当辰年種荷物差立分一駄ニ付金拾四両余相懸り申候、右ニ付駄賃之外ねたり被取候分、左ニ相記し申候、

壱駄ニ付　　石和宿
金壱分ト八百文ツツ　　栗原宿
　　勝沼宿
　　駒飼宿

金壱両　鶴瀬
金壱分　御関所
金壱分　白野宿
金壱分　初狩宿
金壱分五百文　花咲宿
金壱分五百文　大月宿
金壱分　駒橋宿
金壱分　猿橋宿
金壱分一朱　鳥沢宿
金壱分ト五百文　犬目宿
金壱分一朱　野田尻宿
壱〆六百文　鶴川宿
金壱両　鶴川
川越
金壱分　上の原宿
金弐分弐朱　関野宿
金弐分弐朱　吉野宿
金弐分　与瀬宿
金弐分　小原宿

右ハ壱駄ニ付ねたり被取候分ニ御座候

一小仏より駒木野宿迄之処、道法一里弐拾六丁之処、金弐分ツツねたり被取申候、

一駒木野宿より八王子宿迄之処、弐里余之処、一駄ニ付金壱分ツツ相渡申候、是ハ外並より安賃銭ニ御座候、

一八王子宿より神奈川宿迄之処、是迄金壱両ニ御座候処、此度之儀ハ弐両ツツねたり被取申候、

一当地より蚕種紙馬荷ニ不相成、手人足ニ而為持遣候処、左之通ねたり被取申候、

人足持壱荷ニ付

金弐朱ト弐百文　石和
金弐朱　栗原
金壱朱ト三百文　勝沼
金壱分弐朱　鶴瀬
金弐朱ト三百文　駒飼
金弐朱ト三百文　白野
金壱分　初狩
弐朱　花咲
弐朱　大月
弐朱　駒橋
弐朱　猿橋
三朱　鳥沢
弐朱　犬目
壱朱ト三百文　野田尻
壱分　鶴川
壱朱ト三百文　上の原
壱分　関野
弐朱　吉野
壱分　小原

弐朱　与瀬
弐朱　小仏
弐朱　日向屋
壱分　八王子
弐朱　程ヶ谷

〆金三両三分壱〆七百文

右ハ手人足ニ為持遣し候処、右様不法之酒手ねたり被取申候、
一先達雨中ニ付、字田中川本名日川橋流失仕候折柄、川越と相
唱、種壱駄ニ付金壱両弐分ツツねたり被取申候、且廻り道致
候而も金壱両ツツ受取申候、
一鶴川宿川越銭之儀、諸御通行之向々より川越銭多分受取、猶
又売荷之儀ハ、格別不相当之川越銭受取申候、
右之通差出申候得共、召仕手代共取計ニ而一旦相済候儀ニ付、
是迄之儀無拠奉存候得共、此後左様不法之儀無罷様被仰渡被下
度奉願上候、以上

慶応四辰年六月十九日　前同断印

生糸
御懸り
蚕種紙
御役人中様

御尋ニ付乍恐以書付奉申上候

甲府蚕種紙生糸肝煎惣代伊七・逸平奉申上候、蚕種紙冥加永之儀ハ、昨卯年迄本□（封カ）壱枚ニ付永百文ツツ上納為致、元紙相改候分ハ永拾文ツツ為相納候処、昨十二月頃右御冥加永御仕法替被仰出候趣、御代官所村方之ものより粗承知仕候、然処当地江ハ御達し無御座候ニ付、当三月中右御仕法替御沙汰御座候哉、御伺申上候処、其後今ニ至り御沙汰無御座趣被仰聞候ニ付、昨年中受取来候振合ニ相心得罷在候、且当辰年製作蚕種紙之儀も、今般当表御改所御取建已前ニ付、神奈川仮御改所ニ而御改を請候分ハ、矢張本□（封カ）壱枚ニ付永百文ツツ之割合を以上納仕候儀ニ御座候、右ハ御尋ニ付、乍恐以書付奉申上候、以上

慶応四年辰七月五日　　甲府

町御役所　　蚕種紙

肝煎惣代

生糸

伊七印

逸平印

乍恐以書付奉願上候

甲府蚕種紙生糸肝煎奉申上候、今般御当国生産生糸蚕種紙御改所御取建被仰出、是迄之振合を以、生糸小把毎ニ御改印を請、出荷仕候ニ付、横浜入船町御関門御改所ニ而、壱箇毎ニ御切解御改之上、無差支輸入ニ相成、商人共一同難有仕合奉存候、然処当国製作生糸之儀ハ、隣国と違至而小把ニ而銘々御改印を請候儀、多数之荷物出来候節ハ、御改印手廻り兼候哉ニ奉存、殊ニ追々短日ニも相成候ニ付、此上多数之荷物出来仕候ハハ、何分一日ニ御改出来兼候御儀と心配仕、先達横浜江差出し置候代人より、同所御関門御改所江御伺申上候処、箇之上江御封印有之候ハハ差支有之間敷、就而ハ江戸表

大御総督様御裁判所より其段御沙汰ニ相成候ハハ、無滞相通し
不申趣内々承知仕候、且江戸表御改所より御差立之分ハ、箇之
上江御封印被遊、箇之儘御通ニ相成候趣、是又承知仕候ニ付、
不恐顧奉願上候、相成御儀ニ御座候ハハ前書奉申上候通り、上
御封印之儘御通しニ相成候様、江戸表御裁判所江被仰達、右願
之通り御採用被成下置候ハハ、商人共一同難有仕合ニ奉存候、
然上ハ肝煎共より是迄送り状江奥書致し置候処、以後送り状江
箇数并貫目相記、右出荷之数御帳面江御記帳之上、押切御割印
被成下置候ハハ、聊間違等も有御座間敷御儀ニ奉存候間、何卒
格別之御賢慮を以、前書願之通り御聞済

被成下置候様奉願上候、以上

慶応四辰年七月廿一日

蚕種紙

肝煎

生糸

伊七印

逸平印

佐兵衛印

市左衛門印

弥兵衛印

七月廿五日御付紙被遊御下ケ相成候、左ニ、

願出之趣、弁利之都合可在之候得共、御多端之御場合御手数も相懸り候儀故、今年之処、先是迄之通ニ可相心得、右ニ付願書被相下候事、

町御役所

乍恐以書付奉願上候

生糸蚕種紙肝煎奉申上候、当国生産生糸蚕種紙之荷物御印税上納致、是迄甲州道中八王子宿迄夫より横浜江差立来候処、当十八日夜大洪水大荒ニ付、右道中筋道橋損し出来、当分之内通行相成兼候趣、既ニ当十七日御改を請差立候生糸荷物之儀も、鶴瀬・駒飼・阿弥陀海三宿ニ差滞罷在候処、右ハ大金之荷物ニ付、

跡々仕入方ニ差支誠以当惑仕候、然処先年甲州道中差支之節、
差立候儀も御座候ニ付、此度石和宿より川口・吉田江相懸り、
夫より相州通り横濱表迄差立、同所江早着為致度奉存候間、右
道中筋御関所無滞御通ニ相成候様、御達し被下度奉願上候、就
而ハ石和宿より黒駒通無差支継立候様、石和宿江被仰渡被下度
奉願上候、右願之通り御聞済被成下置候ハハ難有仕合奉存候、
已上

慶応四辰年七月廿四日　蚕種紙

肝煎

生糸

伊七印
佐兵衛印
逸平印
市左衛門印
弥兵衛印

右ハ御聞済ニ相成、藤木・山中・矢倉沢江御印鑑御廻し相成候
趣之処、其内甲州道中道明きニ相成候ニ付、此度之儀ハ見合ニ
仕候、已後差支之節ハ又々可奉願上事、

町御役所

甲州道中韮崎宿ニ而、生糸荷物過当之賃銭受取、生糸商人難渋ニ付、賃銀引合旁金手町半左衛門殿相願、肝煎代として差遣し申候、右帳面之写、

信州金沢宿より甲府韮崎宿迄　甲府
生糸　生糸

表　駄賃定帳　御改所肝煎
蚕種紙　蚕種紙
辰七月　裏　印鑑　京屋伊七印
（肝煎印）　太田屋佐兵衛印
若尾逸平印
竹野屋市左衛門印
京屋弥兵衛印

乍恐以書付奉願上候

甲府町生糸蚕種紙取扱商人共惣代兼生糸肝煎一同奉申上候、私共儀、生糸蚕種紙取扱渡世相営罷在、是迄被仰出候御印税相納、横浜江差送り、同所異人之模様ニ随い、当国之生糸ハ勿論、信州・濃州・飛州・越前・越後・近江迄茂代人差遣し、生糸蚕種紙為買取、其所ニ改所有之候場所ハ、御国遣ひ丈相改、自宅江一ト先引取、於当表外国行御改を請差立申候、右ハ私共肝煎役蒙仰候以来、少分ツツ

たり共当御改所御税納相増候様心懸罷在候、然処信州諏訪より金沢宿、夫より蔦木宿・教来石宿・臺ケ原宿・韮崎宿と継来り、宿駅相対雇賃銭相拂候ニ付、何れも宿之助成ニも相成候様、兼而承知仕候処、近来韮崎宿之儀ハ、諏訪より甲府迄之内ニ而、別段不法之賃銭請取之、当市中商人共一同難渋之趣追々申出候処、当節

御一新御仁徳を奉仰、人毎ニ悪弊相改候様相心得候折柄、殊ニ平日通行致候間柄ニ付、実意之談方致、外宿振合ニ賃銭請取継立呉候様、代人を以申入、猶向後之ため賃銭定帳ニ致度帳面為持遣し、韮崎宿問屋方江及懸合候処、生糸蚕種紙之儀ハ外品と違ひ候ハ、時々手順ニより賃銭高下有之、其御筋様より御差図之儀ハ、格別、生糸肝煎方江相對ニ而取定候儀難相成旨申之候ニ付、無拠駅年寄名主方江懸合仕候処、右両人申聞候ハ、

生糸蚕種迚茂元来売荷物ニ候得共、不法之賃銭受取候筋無之、
向後之処取定可然と、代人促し右両人より懸合呉候得共、一己
之存寄申立居、何分賃銭相定不申候ニ付、無余儀臺ケ原宿始先
宿江茂罷越懸合仕候処、何れも賃銭相定可申候得共、韮崎宿記
帳無之候ニ付、同宿記帳之上ハ記帳可仕旨申之候、乍併賃銭之
儀ハ、壱里ニ付壱駄七百文位より八百五六拾文程之取定ニ付、
其余受取申間敷旨申之候ニ付、代人帰宿仕候、右ニ付当七月以
来、別紙両度之駄賃帳写取奉御覧候、元来韮崎宿之儀ハ甲府迄
三里之処、壱里ニ付弐〆八拾五文ツツ、三里分合六〆五百拾五
文ツツ請取之、右之内壱〆四百文甲府馬士江相渡し候趣承知仕
候、左候得ハ五〆百拾五文之押領ニ相当り申候、外五ヶ宿之内
安賃銭之宿と引競候共、弐倍丈ケ過請取ニ相成申候、右様一同
のものより請取候而ハ、当国商人共ハ不及申、

隣国商人共ニ至迄、甲州道中運送致し候もの無之、既ニ昨年頃より下諏訪宿、夫より中山道筋・上州路通行仕候ニ付、当国商人共始甲州道中宿々ニ至迄、自然衰微ニ相成可申儀と歎敷奉存候、前書奉申上通り、韮崎宿問屋自儘不法之取計仕候而ハ、前後之宿々江相響、追々賃銭相増一同難渋不少趣申出候ニ付、不恐顧無余儀奉歎願候、何卒前顕難渋之始末御憐察被成下置、恐多御儀ニ御座候得共、長禅前御役所江被仰遣被下、右御役所より韮崎宿江厳重御利解被成下、臺ケ原宿より上諏訪迄之賃銭振合を以相定、不法之取計無之様被仰渡被下置、向後之規則相立候ハハ、右渡世一同之もの難有仕合奉存候、右願之通り御採用被成下置候ハハ、莫太之御仁恵と難有奉存候、以上

慶応四辰年八月四日

生糸蚕種紙肝煎

伊七印

佐兵衛印
逸平印
市左衛門印
弥兵衛印

右願書差上候処、一ト先御下ニ相成、別紙御加筆有之、則奉差上候、

町御役所

信州上諏訪宿より甲府迄之賃銭駄賃帳両度写左ニ申上候

七月十一日上諏訪出立

一生糸壱駄　上諏訪宿より金沢宿迄三里
此賃弐〆四百五拾五文　但壱里ニ付七百八拾七文程
一同　壱駄　金沢宿より蔦木宿迄三里
此賃弐〆六百文　同断ニ付八百三拾弐文程
一同　壱駄　蔦木宿より教来石宿迄壱里半
此賃壱〆三百文　同断ニ付八百三拾弐文程
一同　壱駄　教来石宿より臺ヶ原迄壱里半
此賃壱〆三百四拾八文　同断ニ付八百六拾四文程
一同　壱駄　臺ケ原宿より韮崎宿迄四里
此賃弐〆八百六拾壱文　同断ニ付六百八拾七文程

一同　壱駄　　韮崎宿甲府迄三里
此賃六〆五百拾五文　　同断ニ付弐〆八拾五文程
七月廿七日上諏訪出立
一同　壱駄　　上諏訪宿より金沢宿迄三里
此賃弐〆五百五拾九文
一同　壱駄　　金沢宿より蔦木宿迄三里
此賃弐〆五百文
一同　壱駄　　蔦木宿より教来石迄
此賃壱〆三百文
一同　壱駄　　教来石より韮崎迄
此三〆九百文
是ハ橋流失ニ付台廻りニ付凡里数五里余
一同　壹駄　　韮崎宿より甲府迄
此六〆六百拾五文

二

右之通御座候、両度共韮崎宿不相当之請取方仕候外、商人共之分も同様過当之受取方仕候儀ニ付、両度分写取奉差上候、以上

月　日　　肝煎一同

御役所

韮崎宿一件御加筆之上再度奉願候写

乍恐以書付奉願上候

甲府町生糸蚕種紙肝煎一同奉申上候、私共儀、右両品取扱渡世相営罷在、横浜表江差出し、同所相場之模様ニ随ひ、当国之生糸ハ勿論、隣国之生糸買取運送致来候処、甲府町より横浜迄宿之儀ハ御趣意相守、相当之賃銭請取、無差支継立候ニ付、右渡世之もの一同安心運送仕候段（有）難御儀ニ奉存候、然処、韮崎宿之儀ハ、当所商人諸荷物不法之賃銭受取之、上諏訪宿より臺ケ原宿迄之賃銭ニ引競候得ハ、弐倍余ニも相当り、一同難渋仕候趣申出候、然処、当節

御一新御仁政之折柄、右様過当之賃銭請取候而ハ、当国商人共ハ不及申、隣国商人共ニ至迄難渋仕候、既ニ昨年頃より下諏訪宿より中山道筋・上州路通行仕候ニ付、当国商人共始甲州道中宿々ニ至迄、自然衰微ニ相成可申儀と歎敷奉存候、前書奉申上候通り、韮崎宿問屋自儘不法之取計仕候而ハ、前後之宿々江相響き、追々賃銭相増、

一同難渋不少趣申出候ニ付、不顧恐無余儀奉願上候、何卒前顕難渋之始末御憐察被成下、臺ケ原宿より上諏訪宿迄之賃銭振合を以相定、不法之儀無之様、其御筋江被仰達被下置候ハハ、商人共一同難有奉存候、右願之通り御採用被成下置御ハハ、莫太之御仁恵と難有仕合奉存候、已上

慶応四辰年八月

蚕種紙
肝煎
生糸

伊七印
佐兵衛印
逸平印
市左衛門印
弥兵衛印

町御役所

乍恐以書付奉願上候

甲府町蚕種紙生糸肝煎一同奉申上候、当国生産操綿荷物并蛹荷物、是迄武州・相州・駿州・信州其外国々引合ニ相成候節ハ、出荷致来候処、当今

御一新御仁政ニ付、当御国内御静謐ニ而、無差支

出荷物渡世相営候段難有仕合奉存候、右御国恩為御冥加乍聊上納仕度、左ニ奉申上候、

一操綿荷物壱駄ニ付　文銀三匁ツツ

一蛹荷物壱駄ニ付　金壱分ツツ

右之通出荷高を以、上納仕度奉存候間、何卒格別之御憐愍ヲ以、御聞済被成下置候様奉願上候、就而ハ出荷之都度々々御関所通り御印鑑御下渡被成下候様奉願上候、右願之通り御採用被成下候ハハ難有仕合奉存候、以上

慶応四辰年八月

生糸

肝煎

蚕種紙

伊七印

佐兵衛印

逸平印

市左衛門印

弥兵衛印

町御役所

韮崎宿一条一同奉願上候処、左之通り同宿より奉申上候趣を以、書面相借写取申候、

乍恐以書付奉申上候

当御支配所、韮崎宿問屋隼太郎外壱人奉申上候、蚕種紙生糸商人肝煎甲府町逸平其外之者より、右荷品駄賃銭当宿方過当之趣申立、町方御役所江奉出願趣、其段当御役所江御懸合相成候ニ付、取計方御尋御座候、

此段取調仕候処、元賃銭四百拾文之処、先般割増も有之候間、商荷物江も割増請取来候得共、猶又今般元賃銭之上江六倍五割増被仰付候ニ付、以来一駄三拾八貫匁より四拾〆匁と相定、三〆七拾文宛請取可申儀ニ有之、然処前条蚕種紙生糸之儀ハ、一駄四拾七八〆匁も有之、殊ニ継立方別而差急ぎ、当宿江七ッ時過頃又ハ暮合頃着致、直様先宿江差送り呉候様、宰領も頻と無心ニ付、定賃銭之外、馬士共相対を以請取候儀も御座候由、一躰平生外売荷物と違、荷主より倍増ニ而急速継立呉候様、馬士共と取極置候趣、聊問屋并宿方助成ニ不仕、

全く馬士共融通迄之儀ニ候得共、已来ハ馬士共江も精々申聞、
前宿振合も有之候儀ニ付、不取締無之様可申候、
右御尋ニ付、此段乍恐以書付奉申上候、以上

慶応四辰年八月　　韮崎宿

問屋　　隼太郎印
年寄　　源太郎代　　雲平印

甲府
御代官御役所

御用状壱封

甲府市政局附属
横浜印税調　　奥野浅五郎
御掛　　吉田元八郎
御役中様

右藤井屋平次右衛門渡

九月廿一日改所ニおゐて生糸改中左之通り御達ニ相成候写

今般東京海賊橋際元松平和泉守屋敷跡江、生糸蚕種紙改所被為建、印税御取建相成候間、右荷物一端東京江相廻し改印請、於横浜外国人江売込可申事、

但会計局印鑑無之分ハ、同所ニおゐて一切取引不相成候事、

八月

右御日付を以、九月廿一日御達ニ付、十三日・十七日・十九日改印相済差出し分、道中ニ有之候ニ付、早速横浜横浜入船町御改所御詰合中江向、当地御役所より御用状相願差出し申候、

横浜入船町　　甲府市政局附属

生糸御改所　　奥野浅五郎

御詰合中様　　吉田元八郎

江戸収税局御役所より横浜売込問屋方江、御改税納之儀ニ付、
差紙至来之趣申越候ニ付、左之通り出願致し候、

乍恐以書付奉申上候

一甲府町生糸蚕種紙肝煎一同奉申上候、当国生産生糸蚕種紙御
改方之儀、
御一新ニ付、江戸呉服橋内御改所江差出し、御改請候様被仰出
候ニ付、当国より右両品共差出し候処、五月廿日限甲州生糸蚕
種紙共、江戸御改之儀ハ御取消相成候趣、
大御惣督宮様御裁判所より被仰出候ニ付、当表ニおゐて御改所
被為建、私共江肝煎被仰付、六月廿一日より御改印被遊候ニ付、
市中之もの両品共御改を請、其時ニ税納仕候、然処九月廿二日、
猶又東京府海賊橋御改所

江差出し候様御沙汰ニ相成候ニ付、同日より当所御改之儀ハ御差止ニ相成候、然処十月十日頃、東京御改所より御役人様御出張、横浜生糸売込問屋江被仰渡候ハ、八月以来甲州生糸印税相納候様厳重被仰渡候ニ付、同廿日迄御日延奉願上、横浜問屋十月十五日至着飛脚差越候ニ付驚入、早速当御役所江奉願上候処、御印税相済候ニ付、他より不可有異儀旨之御印紙御下渡被成候ニ付、右御印紙早々飛脚差立候ニ付、横浜売込問屋其段同所御裁判所江御訴奉申上、御印紙写奉差上候ニ付、其御筋江御達しニ相成候儀と相心得罷在候処、十月廿五日東京府収税局御役所より、横浜売込問屋五兵衛外五人江御差紙至来ニ付、早速罷出候処、先達甲州生糸

税納可仕旨申渡置候処、廿日迄日延相願置、今以税納不致段、
以之外之儀と厳敷被仰渡候ニ付、前書甲府御改所之儀委敷奉申
上候得共、何分御許容不被成下、是非共税納不仕候而ハ相済不
申様御吟味ニ付、横浜売込問屋実ニ当惑仕候趣、昨三日夕又々
飛脚差越候ニ付、不取敢私共より奉申上候、元来売込問屋之儀
ハ、御税納ニ相抱り候儀ハ少し茂無御座、当表ニおゐて御改済
之荷物ニ付売込仕候処、右様東京府収税局御役所ニおゐて被仰
渡候而ハ、横浜売込問屋共迷惑可仕儀、誠ニ以歎敷御儀ニ奉存
候間、右之段深御憐察被成下、右御税納相済儀、東京府

御役所江被仰達、横浜売込問屋御吟味之儀、御宥免被成下様偏
奉願上候、右ハ再度飛脚至来難渋之趣ニ付、不取敢奉申上候、
万一売込問屋共御咎等被仰付候儀も御座候而ハ、当所荷主共ハ
不及申、私共ニおゐても誠以歎敷御儀ニ奉存、乍恐此段以書付
奉上候、以上

明治元年辰十一月四日

甲府生糸蚕種紙肝煎

伊七印

佐兵衛印

逸平印

市左衛門印

弥兵衛印

町御役所

右願書差出候処、同五日早飛脚を以、収税局御役所江御懸合御用状御差出し之趣被仰渡候、

乍恐以書付奉願上候

一山田町逸平・柳町伊七・佐兵衛奉申上候、私共儀当春已来、御鎮撫蒙御仁政安住渡世相営罷在候処、去月八日当御役所江被召出、名主格被仰付、其上御賞詞被成下置、冥加至極難有仕合奉存候、且御國事ニ付、存付之儀御座候ハハ可奉申上旨被仰渡、難有感化罷在候ニ付奉願上候ハ、今般御米弐千俵御払被遊候趣粗承知仕候、右御米私共三人江御払被成下置候様仕度、右ハ御払奉願上、窮民為手当囲米ニ積置、来春ニ至り高直ニ相成候ハハ、今般御払相場を以難民江売遣し、下直ニ相成候ハハ、時之相場を以売遣し候ハハ、当市中難渋末々之もの共之一助ニも可相成御儀と奉存候、当節隣国之相場聞糺愚按仕候処、当年之儀ハ、霖雨打続全不熟之趣ニ候得共、金詰旁当節之儀ハ格別高価ニ無之候得共、

来春ニ相成候ハハ、払底ニ相成、相場高価ニ可相成も難計奉存候、左候得ハ市中末々之もの共、難渋弥増歎敷奉存、不恐顧奉願上候、御払代金之儀ハ、百俵ニ付金百七拾両替を以御払被成下候ハハ、御沙汰次第早速皆上納可仕候、且右御米御払被仰付候ハハ、壱俵たり共自己勝手売払方不仕、来春ニ至り御伺之上御差図を請、売払方可仕心得ニ御座候間、前顕之次第被為聞召訳、右願之通り被仰付被下置様奉願上候、已上

明治元辰年十一月六日

生糸

甲府　肝煎

蚕種紙

名主格　逸平印

柳町

同断　佐兵衛印

同　伊七印

町御役所

右願上之処、差支之儀会計方ニ有之候趣を以、御下ニ相成申候、

御尋ニ付乍恐以書付奉申上候

一当八月操綿并蛹荷物出荷ニ付、御冥加上納仕度段奉願上候処、操綿并蛹荷物代金積之儀、御尋御座候ニ付、左ニ奉申上候、

一蛹荷壱駄ニ付目方三拾〆匁

此糸目六〆匁より

品ニより六〆弐三百匁位

此代金百弐拾五両位

一操綿壱駄ニ付目方弐拾八〆八百匁

代金拾八両位より

相場高直之節ハ金五拾両位迄

右ハ御尋ニ付代金積奉申上候、先般操綿并蛹荷物御冥加上納仕度段奉願上候儀ハ、当国出口御関所御取締御厳重ニ付、出荷之都度々々御印鑑奉願上候処、御手数奉懸候儀奉恐入、右為御冥加操綿壱駄ニ付文銀三匁ツツ、蛹壱駄ニ付金壱歩ツツ上納仕度奉願上候儀ニ而、全御印鑑御冥加之心得ニ御座候ニ付、右冥加願御聞済ニ相成候上ハ、御関所江宜御達奉願上候、右御尋ニ付、

乍恐以書付奉申上候、

一操綿之儀当国生産不作ニ付、渡来之操綿買取出荷仕候ニ付、荷数も相嵩候得共、当国操綿豊作之節ハ多分ニ相成申候、然処当節右操綿取扱候もの、在方ニ作間渡世と相唱取扱候もの、数多有之候ニ付、当国之儀ハ国産問屋無之、出荷高相訳り不申候間、操綿問屋御取立被遊候ハハ、操綿篠巻出荷高相訳り可申御儀と奉存候、右ハ御尋ニ付以書付奉申上候、已上

明治元辰年十二月十一日

生糸　伊七印
肝煎　佐兵衛印
蚕種紙　逸平印
市左衛門印
弥兵衛印

市政御局

御尋ニ付乍恐以書付奉申上候

一当国生産生糸代金并税金駄賃入用、御尋ニ付左ニ奉申上候、

一生糸壱駄　正目三拾六〆匁

此代金七百弐拾両位より
相場高直之節ハ金千百両位迄
此税糸壱〆八拾匁
此代金弐拾壱両弐分位より
相場高直之節ハ金弐拾七両位迄
駄賃三拾六〆匁壱駄ニ付
横浜迄賃金五両より五両弐分位
東京廻り
賃金六両弐分より六両三分位
横浜迄

右之通奉願上候処、十二月廿二日奥野様より御人ニ付御役所江罷出候処、くり綿之儀ハ願之通り御聞済ニ相成申候、蛹荷之儀ハ金高税納之七分五厘相納候様御沙汰ニ付、生蛹取扱候而ハ金高相違ニ付、来春書上候段申答置候、右心得迄相記し置申候、
右ハ御尋ニ付、乍恐以書付奉申上候、以上

辰十二月十九日　　生糸
肝煎惣代
蚕種紙
伊七印

市政御局

乍恐以書付御窺奉申上候

一生糸肝煎一同奉申上候、東京府収税局より今般生糸蚕種紙渡世之者共江、株鑑札御下渡ニ相成候趣御沙汰有之、既ニ昨日当町中江御触ニ相成候段承知

仕候、然処収税局御触書持参ニ而、当国山梨郡神内川村傳兵衛外壱人、先達而当地江罷越、右両品渡世之ものより願書請印取之、追而御鑑札御下渡可被成旨申之候、然処土地不案内ニ付、私共一同江右取締取扱呉候様、先達中より度々御懸合有之候得共、東京府より御達已前之儀ニ付断り及候処、昨日御触流ニ相成候ニ付、右世話方取扱呉候様猶又談事有之、右取計方当惑仕、無余儀御伺奉申上候、右御鑑札取扱方之儀如何可仕哉、乍恐此段以書付御伺奉申上候、已上

明治元辰年十二月廿日

生糸肝煎惣代　佐兵衛
逸平
伊七印

市政御局

右願上候処、江戸表出府之儀被仰付候、仍之正月十日頃迄出府仕候様、右三人之ものより御答仕置候、其節御添翰御渡ニ相成申候、已上

郡政局より若尾逸平方江御尋之趣、半左衛門殿申参候ニ付、
左之通書付差出し申候、

御尋ニ付乍恐以書付奉申上候

一当十一月東京府収税局より、生糸蚕種紙御鑑札頂戴致来候処、
右ハ最初より之手続可奉申上候様被仰渡承知奉畏、左ニ奉申
上候、

此段去辰十一月、東京府収税御局付之もの由ニ而、傳兵衛
・安兵衛・政右衛門と申もの御触御印書持参、当府中生糸蚕
種紙元肝煎共宅江参り、右両品御鑑札今般御下渡ニ相成候
ニ付、右御鑑札取締致呉候様談判有之候得共、何れ茂商人
之儀ニ付望も無之趣、然処右三人より、甲府町右渡世之も
の江示談ニおよひ、御鑑札御下渡之儀、右三人江相頼可申
様内談有之由風ニ承知仕候得共、元肝煎共之儀ハ、右渡世
重立候もの之儀ニ付、右三人之もの之手江付御鑑札相願候、
存寄も無之、東京府江直々願出候心得ニ而、市政局江御添
翰奉願上候処、添翰差出可申候得共、横浜行商人之分取調
望之もの有之候ハハ、一同ニ致し可願出旨被仰渡候ニ付、

市中渡世之もの共江元肝煎共より為申聞候処、望之人有之、一同願出候ニ付頼を請、私并外壱人為惣代出府之上、御鑑札奉願上候儀ニ御座候、

右ハ御尋ニ付、乍恐以書付奉申上候、以上

明治二巳年七月五日　　半左衛門

甲府御役所

午六月廿九日池田様江内々書上覚

種一駄

金壱両弐朱ト百文　下より上諏訪迄壱里之処

金壱両一分百文　上諏訪より金沢迄三里

金弐分ト三〆九百文　金沢より蔦木迄三里

金弐分一朱ト八〆七百拾文　蔦木より教来石迄一里半

七〆五百文　教来石より台ヶ原迄一里半

金壱両三朱　台ケ原より韮崎迄四里

糸一駄

弐〆七百五拾六文外弐百廿四文まし　金沢より蔦木迄

壱〆六百文弐百六拾四文　蔦木より教来石迄

壱〆七百文外弐百廿四文　教来石より台ケ原迄

三〆六百六拾八文外四百文まし　台ヶ原より韮崎迄

四〆六百文外五百五拾弐文　韮崎より甲府迄

〆拾六〆文

拾九〆弐百五拾七文　　韮崎より甲府迄三里

口上書之覚

甲府道中宿々売荷物賃銭受取方之儀、甲府より郡内上の原宿迄之処、柳町佐兵衛・山田町逸平より奉書上候ニ付、私之儀ハ書上不申候、尤右宿々之儀ハ相当之賃銭受取候儀と奉存候、右宿々相除き甲府より上韮崎宿、夫より金沢宿迄之処、不相当之分も有之哉ニ奉存候、奉書上候間、克御賢慮奉願上候、一教来石宿之儀ハ、蔦木宿より早朝出立、五ツ時より四ツ時頃迄ニ附入候而も、宿法之趣を以其日ハ継立不申、急キ荷物之節、相場高下有之当惑ニ付、隣宿之馬士相雇付出し候節ハ、右馬雇賃ハ雇馬江荷主より相渡、右之外ニ宿定之継賃銭、別段ニ相払候訳ニ相成居申候、折節二重之賃銀差出し候儀も有候ニ付、昼前付込候荷物ハ隣宿江早々継送り、賃銭之儀も宿定丈ニ而相済候様相成候ハハ、商人相助り申候、